

# こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森  
Tel: 04-7132-8800  
Fax: 04-7132-8806  
Email: info@konbukuroike.com  
URL: http://www.konbukuroike.com

2025 年 8 月

第 136 号

## 主な予定

8 月 16 日 (土)

ラコルタ縁日 2025

於：ラコルタ柏

## 3 月 2 日 (日) こんぶくろ池保全活動報告会から 園路沿いでのスズメバチ対策

### 1- はじめに

こんぶくろ池自然博物公園は猛禽類をはじめとして動植物や菌類、細菌類まで様々な生き物に出会える市民の憩いの場となっている。多様な生き物の中でもスズメバチは来園者への被害が危惧されるので、来園者や会員の安全と、自然公園としての生物多様性維持の両方の観点から検討を重ね、2023 年 9 月理事会において対応ルールとフローチャートを作成した (図 1)。これらは会員メーリングリストで共有し、管理棟にこれを設置した。また、ポスターはルール化以前から使用していたものに、理事長のアイデアで SDGs の目標 15「陸の豊かさを守ろう」のアイコンを付記した (図 2)。ルール制定後にも、モンスズメバチ、オオスズメバチが園路沿いでいずれもスギに営巣し駆除対象になった。また園路沿いに置かれた木の洞でキイロスズメバチが営巣し木ごと移動する処置がとられた。

巣は開けた園路沿いでよく見つかる。来園者の安全確保のために、園路沿いでスズメバチが営巣しないよう、園路沿いで洞を塞ぐなどの対応策を実施している。

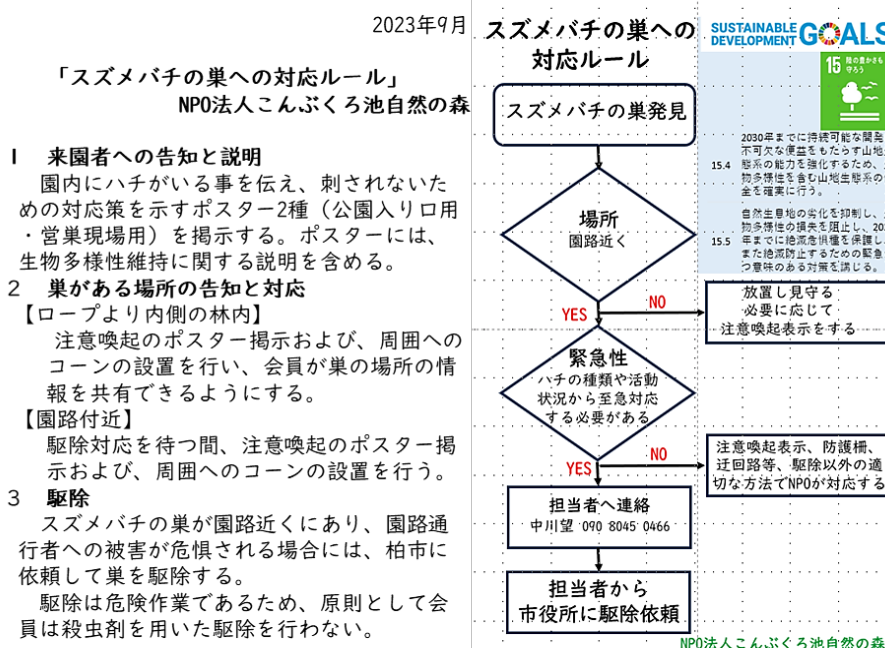


図1 スズメバチの巣への対応ルール フローチャート

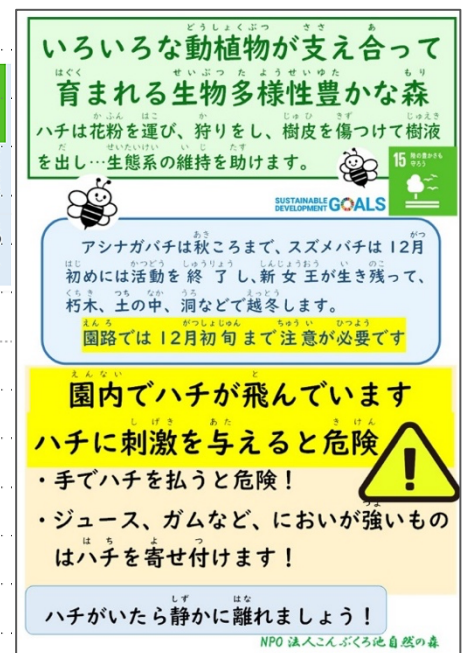


図2 公園入り口掲示用ポスター







図5 スズメバチの営巣懸念箇所確認結果（2025年1月13日）

### 3- 結果と今後の作業

#### 3-1. 2024年6月29日の結果（図3）～2024年度中の園路周辺への営巣対策～

長期にわたり営巣が懸念される木として計13本（スギ11本 アカメガシワ1本 サワラ1本）を、またモンスズメバチが営巣中のスギ1本を確認した（図3）。6月29日は既にオオスズメバチなどが営巣を終えている時期なので、今年度中にこれからモンスズメバチ、キイロスズメバチ等の営巣が懸念されるスギ3本のウロをネットで覆った（図4）。洞があり営巣が懸念される木の大部分がスギであり、縦方向に広がっていて塞ぐことが困難な形状の洞もある。洞は年々大きくなるので倒木の懸念もあり、ネット巻き実施木以外の営巣懸念木は伐採候補木として記録した。

#### 3-2. 2025年1月13日の結果と今後の作業（図5）～2024年度中の園路周辺への営巣対策～

6月29日に確認したものを含め対応が必要な19本（スギ17本 コナラ1本 サワラ1本）を確認し、そのうち新たに見つかったスギ6本、コナラ1本へ白色の樹木テープを巻いた。さらに、前回伐採候補木とした営巣懸念木を含め、次期営巣期に向け実施す

べき作業を次のように分類して記録した。作業予定は次のとおりである。

- ① 根元への土かけ作業・倒木等の移動 [倒木下や根元 (図6) など、比較的やわらかい土を掘りこんで営巣するオオスズメバチ (図7) への対策として]
- ② 塞ぐことが可能な洞をネットで塞ぐ [モンスズメバチ (図8)、キイロスズメバチへの対策として]
- ③ 落枝や倒木などを園路から 10m 以上離れた場所に移動させる [園路から 10m 以上離れていれば、落枝や倒木等にスズメバチが営巣した場合、来園者に被害が及ぶ可能性が低い]
- ④ 管理棟前の集積場では、丸太や枝をできるだけ奥に積む [③の理由から]
- ⑤ これら作業は 3 月の定例活動日に開始し、遅くとも 6 月までに可能な限り実施する。

### 3-3. その他

2024 年 9 月に駐車場の生垣の奥まった場所にコガタスズメバチが営巣したが、巣の終焉に近い時期であり、園路沿いではなく、人が入りにくい場所での営巣だったので、注意喚起のポスターとコーンを設置して静観した。10 月 20 日きのこ観察会の数日前に、念のため小川さんに巣を撤去していただいた。



図6 倒木の根元



図7 夏期にスギの根元にできた  
オオスズメバチの巣の入り口



図8 夏期にスギの洞にできた  
モンスズメバチの巣

### 4- まとめ

陸上生態系の頂点には猛禽類がおり、光合成を行う植物などを基盤として、食う食われる関係によって生物多様性のバランスが保たれている。一方で、殺虫剤を使用して駆除を行うと、狙った虫が殺虫されるだけでなく、場合により人体への影響も危惧され、また洞の中や土壌など周辺の生態系への影響について不明なところもある。

市民の憩いの場となっている当園では、来園者や会員の安全面への配慮が重要である。一方で、憩いの場となるような生態系を維持

する工夫も求められるところである。園路沿いでスズメバチが営巣しないよう、営巣開始時期の前に洞を塞ぐなどの対策をとることで来園者への安全が確保され、それが同時に少しでも生態系の維持につながることを期待して、来年度予定している作業をすすめたい。

また、本調査で抽出された園路沿いにあり洞がある木のほとんどはスギであった。狭い間隔に植わったスギの現状が改めて明らかになった。この結果は今後の保全活動の参考にもなると考えられる。

担当者 上田 真佐江

## 柏市にもダムがある！？

橋本谷 弘司

「ダム」と言うと黒部ダムなどが思い浮びますが、ダムとは基礎地盤から堤頂までの高さが15m以上の治水、利水を目的としたもので、そのようなダムは柏市にはありませんが、国土交通省は、ダムのことをより知っていただこうと2007（平成19）年より「ダムカード」を作成し、ダムを訪問した方に配布しています。現在、800ヵ所以上が対象になっています。このダムカードは、ダムだけでなく国土交通省所管水資源開発施設（貯水池、導水路等）を含めていますので、正式なダムではありませんが北千葉導水路および手賀沼も対象になっています。

カードの大きさや掲載する情報項目などは、全国で統一したものにしており、おもて面はダムの写真、右上にダムの目的を記号で表示しています。F：洪水調整、N：河川環境の保全、W：上水道、P：発電、I：工業用水、A：農業用水などです。

うら面はダムの形式や貯水池の容量・ダムを建設したときの技術といった基本的な情報からちょっとマニアックな情報までを凝縮して載せています。

北千葉導水路の目的はFWI（洪水調整、上水道、工業用水）と浄化用水で手賀沼の目的はFA（洪水調整、農業用水）です。

北千葉導水路は手賀川の下流域の水をポンプアップにより利根川に放水、坂川の下流域の水をポンプアップにより江戸川に放水することで河川による洪水を軽減しています。また、利根川の水を江戸川に流し江戸川の都市用水を確保するとともに途中で手賀沼に分流して浄化用水として手賀沼の水質改善に寄与しています。

北千葉導水路、手賀沼は発電の機能はありませんが、多目的ダムが持つ機能を概ね備えていることを知ると何だか頼もしく見えるのは気のせいでしょうか。

ダムカードは、「北千葉導水路」については北千葉導水ビジターセンター、「手賀沼」については道の駅しょうなんのインフォメーションカウンターで配布されています。



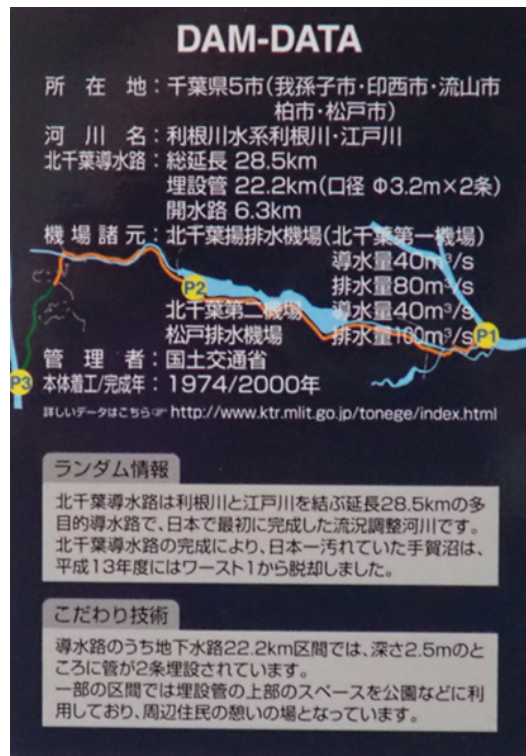
## ダムカード



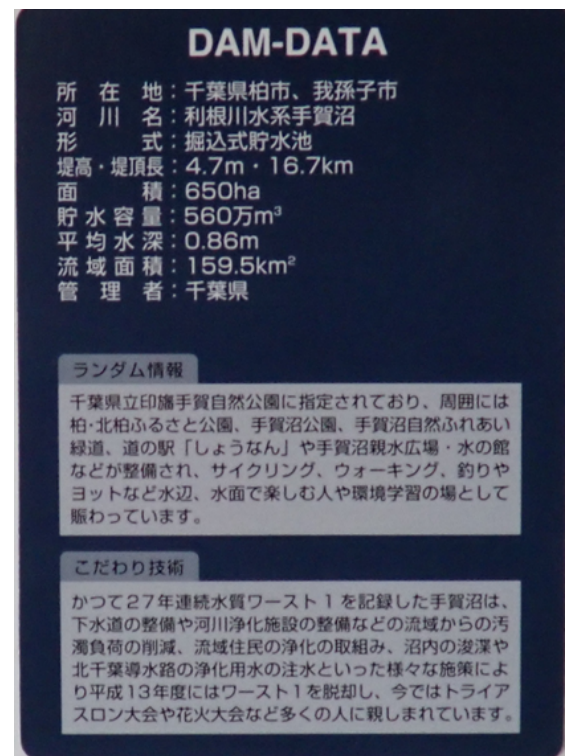
北千葉導水路（おもて面）



手賀沼（おもて面）



北千葉導水路（うら面）



手賀沼（うら面）